

地域リハOT 便り vol.12

地域リハビリテーション部では、地域に貢献に向け、行政や各種団体からの依頼(講師や委員など)に対応できるよう、各市町に担当部員を配置し、連絡、調整を行っています。

地域リハOT便りでは、地域で活躍する各市町の作業療法士の取り組みを紹介します。

今回は、志摩市での取り組みについて、紹介します。

志摩市での取り組み(地域リハ部・志摩市担当:竹内元輝)

今回は、「生活機能向上連携加算」と「通所型サービスC」について紹介します。

「生活機能向上連携加算」とは、リハビリ専門職がデイサービス等へ訪問し、施設と共同で利用者様のアセスメントを行い、個別機能訓練計画を作成することで算定できる加算です。

志摩市では、社会福祉協議会(社協)と連携し、 大王町・磯部町・浜島町のデイサービス3か所へ、

当施設の作業療法士及び理学療法士が訪問しています。 頻度はおおよそ 1 ヶ月に 1 回で介入を行っています。

新規の利用者様のアセスメントや困っている利用者様に 対して個別機能訓練のアドバイスやその方に合った目標設定 普段の生活に対する助言、福祉用具の選定等を行っています。



生活機能向上連携を活用することで、デイサービスでもリハビリ職の専門的な視点を、利用 者様や施設職員にお伝えし、情報共有することで質の高いサービスの提供につながればと考え ています。



当施設では令和4年から「通所型サービスC」を開始しました。対象は、要支援者もしくはサービス事業対象の判定を受けた方です。現在、週1回16:00~17:00の時間帯で計5名の方が利用されています。期間は3~6か月で、短期間の集中的なプログラムにより運動機能や日常生活機能を改善し、社会参加の場につなげるなど居宅や地域で充実した暮らしを送る事ができるよう支援しています。

内容は、その人に合ったセルフエクササイズの指導や生活リハビリの提案などを行っています。また、行動記録表を用いて、普段の生活状況を把握したり、1週間毎の生活目標を話し合う機会を設けています。そういった機会を設けることで「こうしたら上手く生活できるんや」「この習慣を続けていけばいいのかな」等の気付きや発見を促していくことができればと考えています。